

大学院医学系研究科・医学部

● 災害救急医療・高度教育研究センター：

大災害時の救命力向上のために救急医療臨床医学者を育成する医師卒後教育拠点の構築

大学院医学系研究科・医学部 分子病態学／島岡 要(教授)

「環境配慮」に関して医学研究科と附属病院では基礎医学系・臨床医学系講座が専門性の垣根を越えて取り組んでいます。その一例として救急災害医学(臨床系・今井寛教授)と分子病態学(基礎系・島岡要教授)が共同で文部科学省からのサポートを受け設立した『災害救急医療・高度教育研究センター』について紹介します。

災害救急医療では、心肺蘇生や外傷の超急性期の救命処置だけでなく、クラッシュ症候群(震災)・溺水(津波)・重症肺炎(インフルエンザ)に続発する**多臓器不全**が治療上大きな問題となりますが、その病態の解明は十分ではなく、治療法も確立されていません。大災害時に救急医療チームを指揮・統括する医師は、従来の救急医療に必要とされる心肺蘇生処置や外傷治療に関する優れた臨床能力だけでなく、多臓器不全の新しい治療法の研究開発の基礎となる科学知識・研究技術を身に付けた臨床研究医であることが要求されます。このような災害救急医療のための高度の臨床・研究能力を身に付けた臨床研究医育成のための体系的な教育・研究拠点として『災害救急医療・高度教育研究センター』を医学研究科と附属病院内に設立しました。本センターは「災害に強い医師を育てる」事業として社会の注目を集めています。

災害救急医療を担う人材の育成とシステムの構築には、

年単位の時間がかかり、一朝一夕に達成できるものではありません。しかし、震災と津波、さらにはインフルエンザ・**パンデミック**により引き起こされる甚大な数の負傷者と、重症続発症である多臓器不全に対応できる災害救急医療の整備が緊急の課題です。この災害救急医療対策という三重県での緊急課題に、本学が主体となって貢献できる重要な問題への真摯な取り組みとして：“今日救える患者は確実に今日救う。今日救えない患者は明日には救えるように新しい治療法を救急医が研究する”を目標に本センターは設立されました。

災害救急医療・高度教育研究センターでは、多臓器不全の病態解明のための基礎研究スキルを身に付ける医師卒後教育・トレーニングを提供します。センターは臨床部門(救急災害医学内)・基礎部門(分子病態学内)の2つのコアラボラトリーと、ハーバード大学医学部との国際連携分子医学プログラムからなります。救急集中治療の初期トレーニングを終えた医師が3年の期間中、コアラボと連携プログラムをローテーションし、『大災害時に救急医療チームを指揮できる臨床医学者(Physician-Scientist in Critical Care Medicine)』に必要な知識・スキル・人的ネットワーク・コミュニケーション能力を身に付けるための体系的な教育を受けることができます。



センター内の様子



「災害救急医療・高度教育研究センター」開所の様子